

図-3.1.5.19 サンゴ類・藻場分布状況(平成12年12月～平成13年1月調査)

(b) 藻場

図-3.1.5.18～図-3.1.5.19に示すとおり、藻場は、平成9年及び平成12年の調査とも、リーフ内の陸域近くで確認されていますが、リーフ外では確認されていません。

平成12年調査に確認された藻場は約128haであり、平成9年調査時の約126haとほぼ同等となっており、平成12年調査の方が被度は全体的に向上しています。

確認種数は表-3.1.5.18及び表-3.1.5.19に示すとおり、平成9年調査は118種、平成12年調査は137種、確認されています。

表-3. 1. 5. 18 海藻草類確認種一覧(平成9年調査)

海藻類

科	確認種
ヒルムシロ	マツバウミジグサ [※] 、ボウバアマモ、リュウキュウアマモ [※]
トチカガミ	ウミヒルモ [※] 、リュウキュウスガモ [※]
海藻類	
科	確認種
ランソウモドキ	シワランソウモドキ
ヒビミドロ	ヒビミドロ
アオサ	アオノリ属、アオサ属
シオグサ	シオグサ属
ウキオリソウ	ウキオリソウ
バロニア	キッコウグサ、タマバロニア
アオモグサ	アオモグサ、ミドリゲ
イワツタ	タカノハツタ、ビヤクシンツタ、ヨレツタ、ヘライワツタ、スズカケツタ、エツキツタ、サイハイツタ、クビレツタ、コケイワツタ、コテングノハウチワ ^{※3} マユハキモ、サボテングサ、コサボテングサ、サボテングサ属 ウチワサボテングサ、ヒロハサボテングサ ^{※3} 、ミツデサボテングサ
ハネモ	ハネモ属、オオハネモ
ミル	ヒメイチョウ、ネザシミル、モツレミル、タマミル、クロミル クサビガタハウチワ、ハゴロモ、ハウチワ
カサノリ	フデノホ、ミズタマ、イソスギナ、ウスガサネ ^{※2} 、ホソエガサ [※] 、 ^{※1} 、カサノリ ^{※3}
アミジグサ	アミジグサ、アミジグサ属、イトアミジ、カズノアミジ、ハリアミジ シワヤハズ、ジガミグサ、エツキシマオウギ、ウスユキウチワ、オキナウチワ ウチワ属
シオミドロ	マツモ属
ナガマツモ	オキナワモズク
カヤモノリ	カゴメノリ
ホンダワラ	ラッパモク、ホンダワラ、アツバモク、コバモク ^{※2} 、トゲモク、ツクシモク ホンダワラ属
ウシケノリ	ウシケノリ属
ベニモズク	ウミゾウメン属、ケコナハダ ^{※2} 、アケボノモズク ^{※4} 、ヌルハダ ^{※4} 、イシハダ コナハダ属
ガラガラ	ガラガラ、ガラガラ属、パピラガラガラ、ウスバガラガラ、ピロウドガラガラ ジュズガラガラ、ソデガラミ、ナンバンガラガラモドキ
カギケノリ	カギケノリ
テングサ	ハイテングサ、シマテングサ、テングサ属
ナミノハナ	ホソバナミノハナ
イワノカワ	エツキイワノカワ、イワノカワ属
サンゴモ	カニノテ属、エダウチイシモ、イソハリガネ、イシノハナ、モサズキ属
ミリン	キリンサイ ^{※4}
ユカリ	ユカリ
イバラノリ	イバラノリ、イバラノリ属
オゴノリ	クビレオゴノリ、リュウキュウオゴノリ [※] 、 ^{※3} 、タイワンオゴノリ、カイメンソウ、 テングサモドキ
ワツナギソウ	ワツナギソウ、イトクズグサ、フシツナギ
イギス	ランゲリア、ハネイギス、イギス属、イトグサ属
ダジア	ダジア属
フジマツモ	マクリ、トゲノリ、コケモドキ、ソゾ属、パピラソゾ、キクヒオドシ フジマツモ属
ユレモ	ユレモ科
ネンジュモ	タダレノリ
藍藻綱	藍藻綱の1種

注1：属表記は種の確認まで至らなかったものです。

注2：調査期間は平成9年5月～6月までです。

注3：表中※印の種は、『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—植物I(維管束植物)、植物II(維管束植物以外)—』2000年、環境庁』に登録されている種で、海藻のホソエガサはCR+EN(絶滅危惧I類)に、それ以外の種はNT(準絶滅危惧)に指定されています。

注4：表中※1～4印の種は『改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(菌類・植物編)—レッドデータおきなわ—』2006年2月、沖縄県』に登録されている種で、※1はCR+EN(絶滅危惧I類)、※2はVU(絶滅危惧II類)、※3はNT(準絶滅危惧)、※4はDD(情報不足)に指定されています。

資料：「第3回代替施設協議会資料(地形、生物分布等の状況について)」平成12年10月、防衛庁

表-3.1.5.19 海藻草類確認種一覧(平成12年調査)

海藻類

科	確認種
ヒルムシロ	マツバウミジグサ [※] 、ボウバアマモ、リュウキュウアマモ [※] ベニアマモ [※] 、ウミジグサ [※]
トチカガミ	ウミヒルモ [※] 、リュウキュウスガモ [※]

海藻類

科	確認種
ランソウモドキ	シワランソウモドキ
ヒビミドロ	ヒビミドロ
アオサ	アオノリ属、ボウアオノリ、アオサ属
ウキオリソウ	ウキオリソウ、 <u>タノモグサ</u>
シオグサ	シオグサ属
アオモグサ	アオモグサ
マガタマモ	ミドリゲ
パロニア	キッコウグサ、ムクキッコウグサ、パロニア属、タマパロニア タマゴパロニア、オオパロニア
イワズタ	ハライワズタ、ビヤクシンズタ、ヒメシダズタ、クビレズタ、スズカケズタ エツキズタ、センナリズタ、ヨレズタ、キザミズタ ^{※2} 、タカノハズタ コケイワツタ
ハゴロモ	クサビガタハウチワ、コテングノハウチワ ^{※3} 、マユハキモ サボテングサ属、ウチワサボテングサ、ミツデサボテングサ ヒロハサボテングサ ^{※3} 、サボテングサ、ヒメイチョウ、ハゴロモ、スズカケモ
ミル	ネザシミル、モツレミル
ハネモ	ハネモ属、オオハネモ、ハネモモドキ ^{※4}
ダジクラズ	ミズタマ、フデノホ、ウスガサネ ^{※2}
カサノリ	ホソエガサ [※] 、 ^{※1} 、リュウキュウガサ、ホシガタカサノリ カサノリ ^{※3} 、ヒナカサノリ、イソスキナ
アミジグサ	シロヤハズ、アミジグサ属、カズノアミジ、 <u>コモンアミジ</u> 、イトアミジ ウスバウミウチワ、ウスユキウチワ、エツキンマオウギ
ナガマツモ	オキナワモズク
カキモノリ	カゴモノリ、 <u>フクロノリ</u> 、モサクダフクロ
ホンダワラ	ホンダワラ属、コバモク ^{※2} 、ウスバモク、ラッパモク
ウガノモク	<u>ヤバネモク</u> ^{※3}
ガラガラ	ソデガラミ、ピロウドガラガラ、ウスバガラガラ、ジュズガラガラ、ガラガラ属 ガラガラ、 <u>ナンキガラガラ</u>
ベニモズク	ケコナハダ ^{※2} 、コナハダ属、ウミゾウメン属
サンゴモ	<u>無節サンゴモ類</u> 、カニノテ属、 <u>ハイカニノテ</u> 、 <u>ヒライボ</u> 、イソハリガネ ヒメシコロ、モサズキ属、 <u>ヒメモサズキ</u> 、イシノハナ、エダウチイシモ
テングサ	シマテングサ、テングサ属、ハイテングサ
カギケノリ	カギケノリ
ナミイワタケ	<u>ナミイワタケ</u>
イバラノリ	イバラノリ属、イバラノリ
ムカデノリ	<u>マルバグサ</u>
イワノカワ	イワノカワ属、エツキイワノカワ
ユカリ	ユカリ
ボリイデス	ナンバンガラガラモドキ
ナミノハナ	ホソバナミノハナ
アツバノリ	<u>ミアナグサ</u>

海藻類

科	確認種
ミリン	キリンサイ ^{※4}
イソモッカ	<u>イソダンツウ属</u>
リュウモンソウ	<u>ヒピロウド</u> 、 <u>ガラガラモドキ</u>
オゴノリ	クビレオゴノリ、タイワンオゴノリ、 <u>ユミガタオゴノリ</u>
ワツナギソウ	ワツナギソウ
マサゴシバリ	カイメンソウ、テングサモドキ、 <u>マサゴシバリ属</u>
イギス	イギス属、 <u>ケイギス</u> 、 <u>ウブゲグサ</u> 、ハネイギス、ランゲリア
ダジア	ダジア属、 <u>エナシダジア</u>
コノハノリ	<u>カラゴロモ</u> ^{※4}
フジマツモ	トゲノリ、 <u>ツクシホウズキ</u> ^{※3} 、コケモドキ、マクリ、ソゾ属、パピラソゾ キクヒオドシ、 <u>フジマツモ科</u> 、イトグサ属、イトクズグサ、 <u>ヤナギノリ</u> <u>カエリナミ</u> 、 <u>ヒゲヨレミグサ</u>
ユレモ	<u>クダモ属</u>
藍藻綱	藍藻綱

注1：下線で示す種は、平成9年調査では確認されなかった種(46種)です。

注2：属表記は種の確認まで至らなかったものです。

注3：調査期間は平成12年12月～平成13年1月までです。

注4：表中※印の種は、『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—植物I(維管束植物)、植物II(維管束植物以外)—』2000年、環境庁に収録されている種で、海藻のホソエガサはCR+EN(絶滅危惧I類)に、それ以外の種はNT(準絶滅危惧)に指定されています。

注5：表中※1～4印の種は『改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(菌類・植物編)—レッドデータおきなわ—』2006年2月、沖縄県に収録されている種で、※1はCR+EN(絶滅危惧I類)、※2はVU(絶滅危惧II類)、※3はNT(準絶滅危惧)、※4はDD(情報不足)に指定されています。

資料：「第6回代替施設協議会資料(「珊瑚・藻場補足調査」の結果について)」平成13年3月、防衛庁

(c) その他の海生生物

那覇防衛施設局が平成9年7月～10月に潮間帯生物、動植物プランクトン、魚卵・稚仔魚、魚類、底生動物、ウミガメ類の調査を実施しています。

a) 潮間帯生物

確認種は、被子植物門3種、緑藻植物門11種、褐藻植物門4種、紅藻植物門8種、藍藻植物門1種、海綿動物門1種、刺胞動物門4種、軟体動物門52種、環形動物門1種、節足動物門9種、棘皮動物門2種の植物27種、動物69種の合計96種となっています。

b) 植物プランクトン

確認種は、藍藻綱5種、クリプト藻綱1種、渦鞭毛藻綱21種、黄金色藻綱1種、珪藻綱40種、ミドリムシ藻綱1種、プラシノ藻綱1種、緑藻綱1種、不明微細鞭毛藻類1種の合計72種となっています。

c) 動物プランクトン

確認種は、フェオダリア綱1種、根足虫綱1種、ヒドロ虫綱1種、腹足綱1種、鰓脚綱1種、カイアシ亜綱29種、矢虫綱1種、尾虫綱2種、幼生類11種の合計48種となっています。

d) 魚卵

確認種は18種となっており、そのうち、ふ化実験によりふ化したものは、ブダイ科、ウナギ目、エソ科、フサカサゴ型、ベラ科、タイ型、アゴアマダイ科、ウシノシタ亜目と推定される8種となっています。

e) 魚類

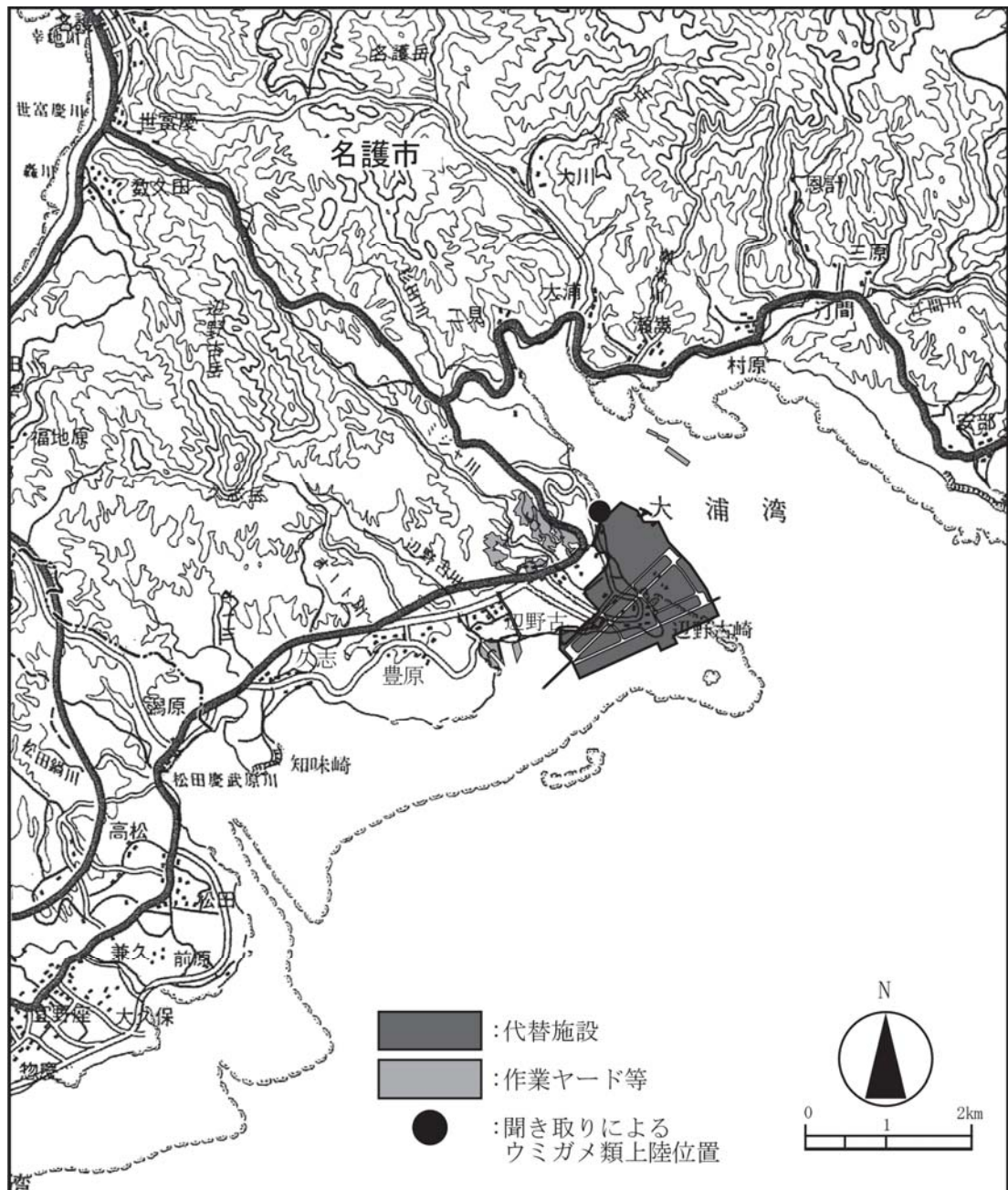
確認種は101種となっており、主な出現種はスズメダイ科19種、ベラ科18種、チョウチョウウオ科、ハゼ科、ニザダイ科各7種となっています。

f) 底生動物

確認種は、大型底生動物で棘皮動物16種、軟体動物15種、刺胞動物11種、脊索動物5種、海綿動物4種、節足動物3種、環形動物2種、扁形動物1種、触手動物1種となっており、小型底生動物で環形動物54種、節足動物32種、軟体動物8種、棘皮動物3種、刺胞動物、扁形動物、紐形動物、線形動物、星口動物、ユムシ動物各1種の合計161種となっています。

なお、「沖縄生物学会誌、(No. 41 pp25-32、2003)」によると2002年8月に名護市楚久地先の泥質干潟でトカゲハゼが確認されています。

ウミガメ類は図-3.1.5.20 に示すとおり、現地調査では足跡、ボディピット及び産卵巣は確認されませんでした。聞き取り調査ではキャンプ・シュワブ基地内北側の1カ所の砂浜において、毎年ではありませんが、足跡又はボディピットが過去に確認されています。



資料：「シュワブ沖現地現況調査(その1)」平成9年10月、那覇防衛施設局

図-3.1.5.20 聞き取りによるウミガメ類上陸位置

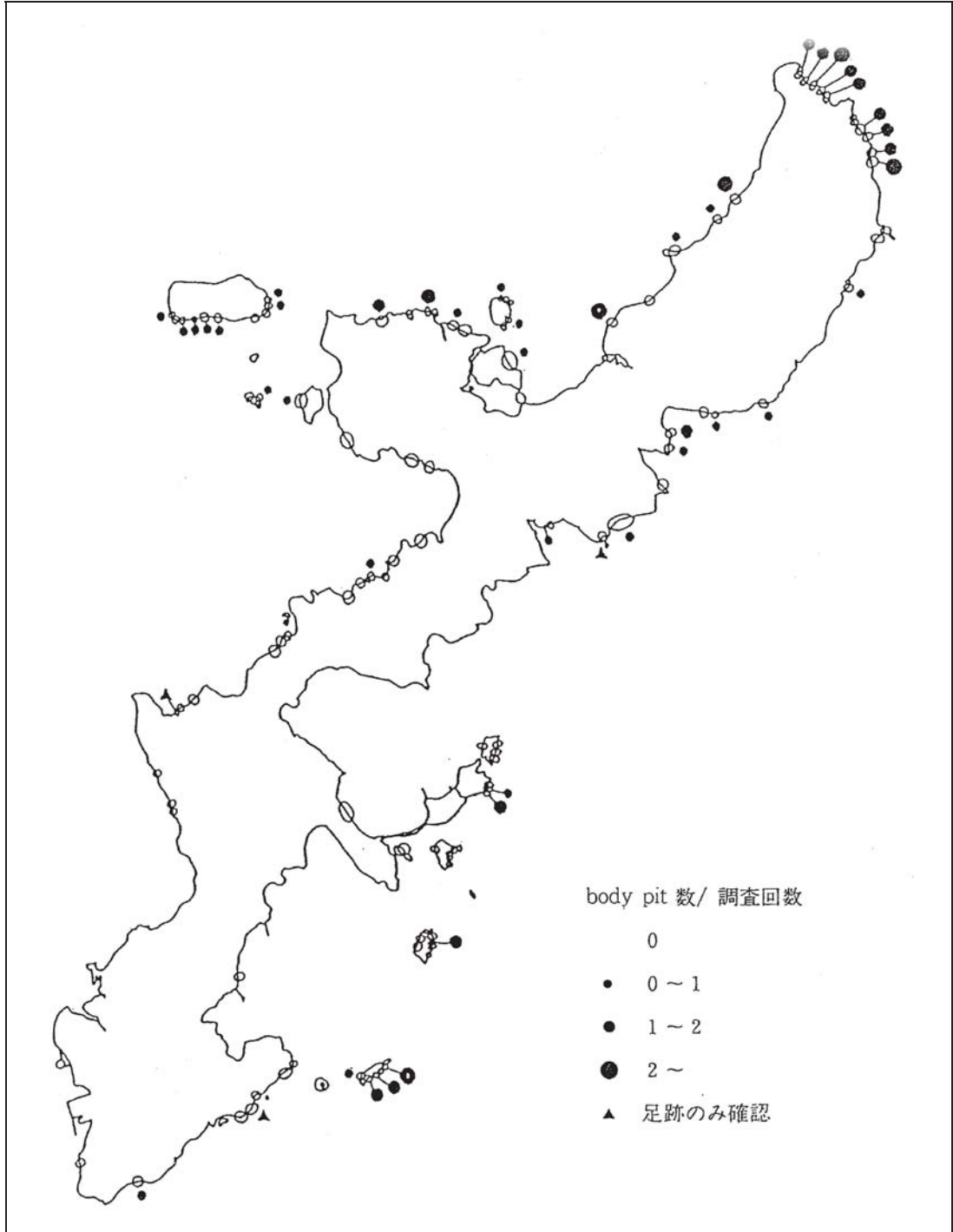
3) 既存文献における海生生物の生息・生育状況に関わるその他の情報

表-3.1.5.20 に示す、名護市辺野古沿岸海域の動物相及び植物相に関わる既往の文献・資料に掲載されている種の種数を生物群ごとに整理すると表-3.1.5.21 に示すとおりです。このうち、環境省の「レッドリスト」や沖縄県の「レッドデータおきなわ」に記載されている種の種数は、表-3.1.5.22 に示すとおりです。

表-3.1.5.20 名護市辺野古沿岸海域の動物相及び植物相に関する整理の対象とした既往の文献・資料

No.	文献・資料名	著者・発行者	発行年	備考
1	沖縄の潮間帯現状調査報告書(案)－沖縄の潮間帯－1974	琉大海洋保全研究会、西平守孝	昭和49年	St. 81, 82, 83, 84が範囲内に該当
2	仲嶺俊子貝類コレクション標本目録	沖縄県立博物館	平成4年	貝殻での記録含む
3	第4回自然環境保全基礎調査	環境庁	平成8年	
4	シュワブ沖珊瑚・海藻草類分布調査報告書	那覇防衛施設局	平成9年	
5	シュワブ沖現地現況調査(その1)報告書	那覇防衛施設局	平成9年	
6	沖縄地区(H12)珊瑚・藻場補足調査報告書	那覇防衛施設局	平成13年	
7	琉球列島における内湾干潟の貝類相 [WWF Japan サイエンスレポート 第4巻]	名和純	平成13年	St. 7が範囲内に該当
8	日本の重要湿地500 [平成13年度 重要湿地普及啓発業務 報告書]	環境省自然環境局、国際湿地保全連合日本委員会	平成14年	449「沖縄島東沿岸(辺野古～漢那)」、450「慶武原川」、453「大浦湾および大浦川」が範囲内に該当
9	沖縄島名護市楚久地先で確認されたハゼ亜目魚類トカゲハゼ <i>Scartelaos histophorus</i> [沖縄生物学会誌、第41号、pp. 25-32]	昆健志・桜井雄・武井直行	平成15年	
10	沖縄北東岸のサンゴ礁性貝類相の現状調査 [第12期プロ・ナトゥーラ・ファンド助成成果報告書]	ウルマ貝類調査グループ(黒住耐二、他)	平成15年	貝殻での記録含む
11	改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)-レッドデータおきなわ-	沖縄県文化環境部自然保護課	平成17年	
12	沖縄島汀間川の魚類相 [沖縄生物学会誌、第44号、pp. 7-25]	前田健・立原一憲	平成18年	St. 1が範囲内に該当
13	琉球列島の海藻藻場で発見されたニッコウガイ上科の1新種 [VENUS、第65巻第4号、pp. 291-297]	加藤真・大須賀健	平成19年	
14	第7回 自然環境保全基礎調査 浅海域生態系調査(干潟調査)報告書	環境省自然環境局生物多様性センター	平成19年	
15	(予報) 普天間飛行場代替施設建設事業における大浦湾側埋め立て予定地の貝類の状況 [沖縄島北部東海岸における海草藻場モニタリング調査報告書 日本自然保護協会報告書、第97号、pp. 55-59]	黒住耐二	平成19年	
16	辺野古周辺海域の海草藻場の状況 [沖縄島北部東海岸における海草藻場モニタリング調査報告書 日本自然保護協会報告書、第97号、pp. 43-48]	仲岡雅裕・石橋知佳・河内直子・吉田正人	平成19年	
17	(短報) 普天間飛行場代替施設建設事業における大浦湾側埋め立て予定地の海草の状況 [沖縄島北部東海岸における海草藻場モニタリング調査報告書 日本自然保護協会報告書、第97号、pp. 61-63]	仲岡雅裕	平成19年	
18	大浦湾生き物マッププロジェクト	沖縄リーフチェック研究会	平成21年	

また、ウミガメ類については、沖縄県教育委員会により、沖縄島とその周辺離島における長さ50m以上の砂浜のうち113箇所を対象とした生息実態調査が実施されています。沖縄島における調査の結果は、図-3.1.5.21に示すとおり、宜野座村松田～バン崎の範囲では嘉陽、安部、瀬嵩に設定された4箇所のうち、3箇所において産卵痕跡もしくは足跡が記録されています。



資料:「ウミガメ類生息実態調査報告書I -沖縄島及び周辺離島における調査結果-」平成8年3月、沖縄県教育委員会

図-3.1.5.21 沖縄島におけるウミガメ類の産卵痕跡発見砂浜の分布と痕跡数

(2) 陸上動植物

1) 名護市辺野古沿岸域周辺の状況

環境省が実施した「第6回自然環境保全基礎調査」～「第7回植物自然環境保全基礎調査」における植生調査結果は図-3.1.5.22に示すとおりとなっています。

植生は地質によって大別され、黄色土壌を母材とする地域(山地から丘陵、台地部の大部分)がイタジイを優占種とするリュウキュウアオキ-スダジイ群落となっています。また、海岸付近にはリュウキュウマツ群落となっています。平野部には人為的影響が強く見られ畑地、水田や市街地、造成地として利用されています。そのほか植林・広葉樹二次林やススキ草地、リュウキュウガキ-ナガミボチョウジ群落が分布します。名護市辺野古沿岸域周辺は大部分がイタジイ林ですが、東側海岸部ではススキ草地、風衝低木林、リュウキュウマツ群落が確認されています。

また、環境省が実施した「第5回自然環境保全基礎調査」における特定植物群落は表-3.1.5.23、図-3.1.5.23に示すとおり名護市で6件、宜野座村で1件となっています。

なお、表-3.1.5.24に示すとおり「名護市天然記念物調査報告、1999年3月、名護市教育委員会」によると、名護市では、シダ植物22科110種、種子植物133科655種が確認されています。

表-3.1.5.23 特定植物群落

【名護市】

No.	件名	集約群落名	選定基準	相観区分
1	嘉津宇岳、安和岳の古生層石灰岩地植生	ナガミボチョウジ-クスノハカエデ群落	特殊立地, 貴重な個体群	亜熱帯常緑広葉高木林
2	宮里前御嶽のハスノハギリ林	サガリバナ-サキシマスオウ群落	希な群落, 貴重な個体群	亜熱帯常緑広葉高木林
3	許田のウバメガシ		分布限界	個体群
4	許田のヤエヤマネム群落	ウバメガシ群落	希な群落, 分布限界	亜熱帯夏緑広葉高木林
5	大浦御嶽のイタジイ林	スダジイ群落	郷土景観	亜熱帯常緑広葉高木林
6	名護市大浦川のマングローブ林	マングローブ群落	特殊立地	マングローブ林

【宜野座村】

No.	件名	集約群落名	選定基準	相観区分
1	漢那御嶽のアミアアラカシ群落	アラカシ群落	郷土景観, 貴重な個体群	亜熱帯常緑広葉高木林

資料：「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」環境省 自然環境局 生物多様性センターWeb ページ

表-3.1.5.24 名護市の植物

区分		科	種類数	
シダ植物		22	110	
種子植物	裸子植物	4	5	
	被子植物	離弁花	78	297
		合弁花	28	192
	単子葉類	23	161	
合計		155	765	

資料：「名護市天然記念物シリーズ・5 名護市の自然 名護市動植物総合調査報告書」2003年3月、名護市教育委員会

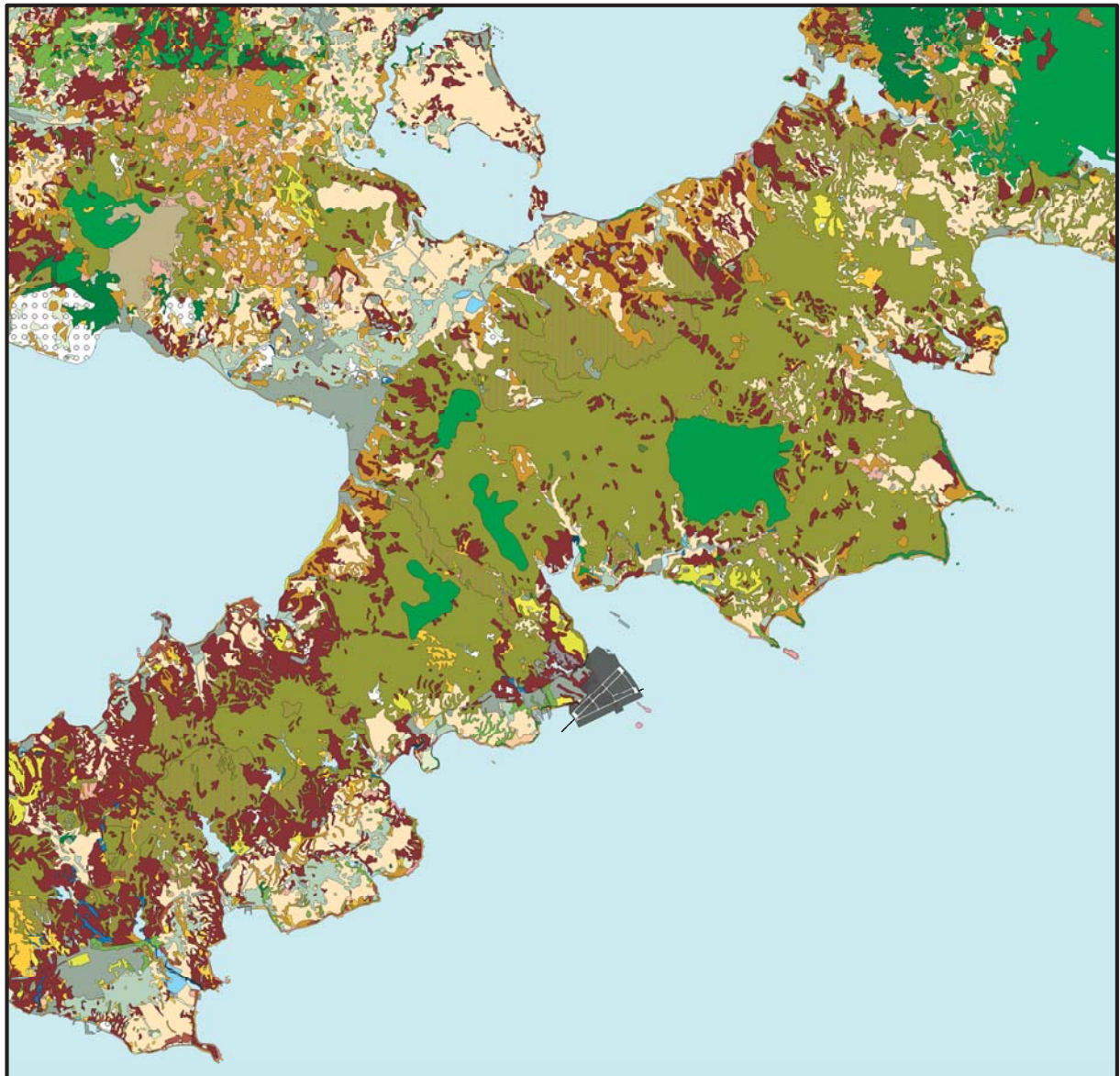
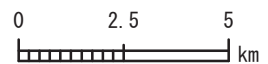
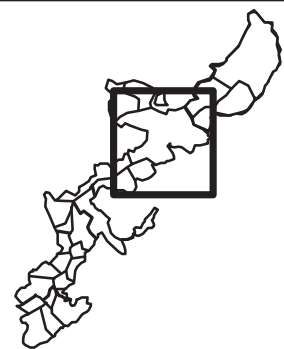
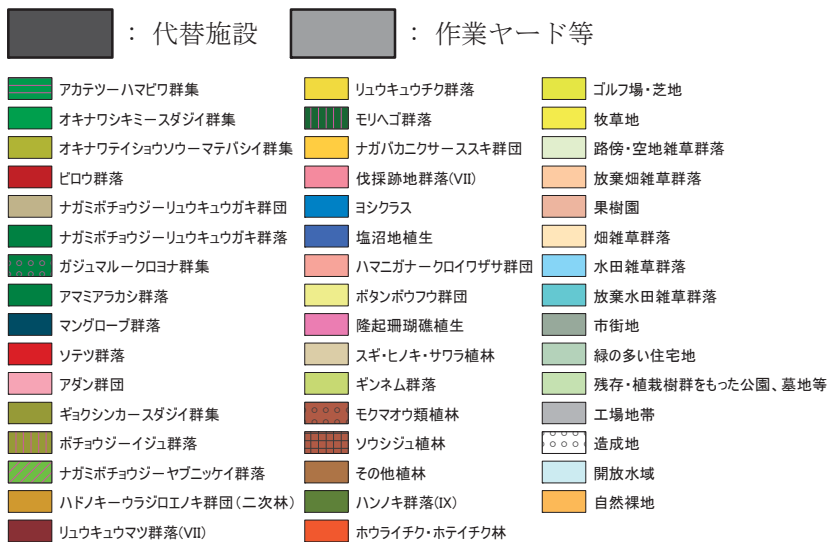


図-3.1.5.22 現存植生

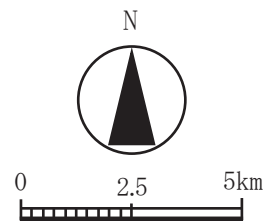
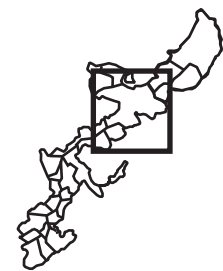


資料：「第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査」、環境省 自然環境局 生物多様性センター



図-3.1.5.23 特定植物群落位置

- : 代替施設
- : 作業ヤード等
- : 市町村界



資料：「第3回自然環境保全基礎調査 沖縄県自然環境情報図」平成元年、環境庁

また、環境省が実施した「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」によると、表-3.1.5.25 及び図-3.1.5.24 に示すとおり、名護市で42本、宜野座村で3本の巨樹・巨木が確認されています。

表-3.1.5.25 巨樹・巨木林調査結果

No.	市町村	名称	樹種名	対象区分	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	名護市	安部	ガジュマル	単木	655	15
2		安和	ガジュマル	単木	450	9.2
3		安和	ガジュマル	単木	410	10.5
4		伊星川	リュウキュウマツ	単木	448	10
5		屋我	モモタマナ	単木	376	16
6		屋部小学校	デイゴ	樹林	380	9
7		屋部小学校	デイゴ	樹林	306	9
8		屋部小学校	デイゴ	樹林	356	9
9		嘉陽	ガジュマル	単木	820	12
10		我部祖河	リュウキュウマツ	樹林	327	7
11		我部祖河	リュウキュウマツ	樹林	320	7
12		我部祖河	リュウキュウマツ	樹林	307	7
13		喜瀬	ガジュマル	単木	890	11
14		久志	ガジュマル	単木	355	8
15		久志	ガジュマル	単木	1140	10
16		宮里	ハスノハギリ	樹林	318	14
17		宮里	ハスノハギリ	樹林	320	14
18		宮里	ハスノハギリ	樹林	320	14
19		宮里	ハスノハギリ	樹林	345	14
20		許田	ウバメガシ	単木	328	8
21		古我地	リュウキュウマツ	樹林	340	15
22		古我地	リュウキュウマツ	樹林	410	15
23		済井出	アコウ	単木	775	8.5
24		山入端	デイゴ	単木	340	8
25		瀬嵩	リュウキュウマツ	単木	440	11
26		川上	リュウキュウマツ	樹林	302	15
27		川上	リュウキュウマツ	樹林	405	15
28		川上	リュウキュウマツ	樹林	335	15
29		川上	リュウキュウマツ	単木	380	13
30		仲尾次	リュウキュウマツ	単木	390	20
31		仲尾次	リュウキュウマツ	単木	325	16
32		底仁屋	リュウキュウマツ	単木	465	10
33		田井等	リュウキュウマツ	樹林	300	13
34		田井等	リュウキュウマツ	樹林	347	13
35		田井等	リュウキュウマツ	樹林	375	16.5
36		名護	アコウ	単木	595	11
37		名護	ガジュマル	単木	1010	19
38		名護	ガジュマル	単木	1320	14
39		名護	タブノキ	単木	337	13
40		名護	デイゴ	単木	435	8.5
41		饒平名	アコウ	単木	453	9.5
42		饒平名	アコウ	単木	406	18
43	宜野座村	漢那区	アコウ	樹林	370	20
44		漢那区	アコウ	樹林	370	15
45		宜野座区	ガジュマル	単木	673	17

資料：「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」環境省 自然環境局 生物多様性センターWeb ページ

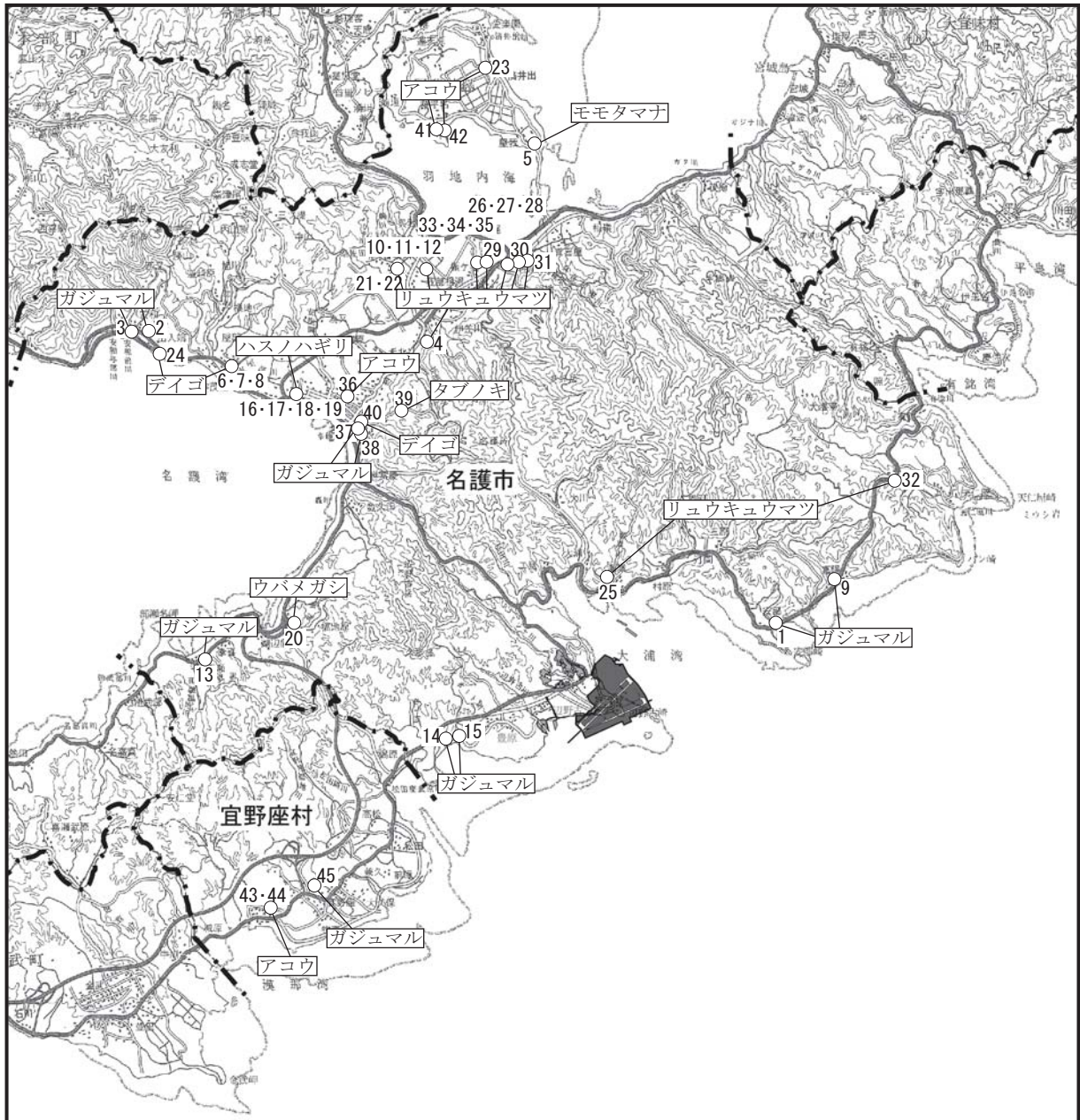





図-3.1.5.24 巨樹・巨木分布状況

-  : 代替施設
-  : 作業ヤード等
-  : 市町村界
- No. : 巨樹・巨木地点

注：図中の番号は表-3.1.5.24に対応しています
 資料：「第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査」環境省 自然環境局
 生物多様性センターWebページ

